

琉球大学学術リポジトリ

政治をどう教えるか： 「現代政治の課題」における実践

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2021-05-26 キーワード (Ja): 政治学, 政治教育, 模擬選挙, 疑似体験 キーワード (En): 作成者: 久保, 慶明 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48503

政治をどう教えるか — 「現代政治の課題」における実践 —

久保 慶明

琉球大学人文社会学部

要 旨

本報告では、政治学を必ずしも専攻しない大学生を対象とした政治教育について、琉球大学共通教育科目（社会系）「現代政治の課題」の実践例を紹介する。この授業は、鬼ごっこや道路のモデル化を通じて、政治を疑似的に体験することから始まる。講義では、様々なテーマを広く扱うのではなく、少数のテーマを掘り下げていく。さらに、模擬選挙への参加を通じて、実際の政治プロセスを疑似的に体験する。

キーワード

政治学、政治教育、模擬選挙、疑似体験

本 文

本報告では、政治学を必ずしも専攻しない大学生を対象とした政治教育について、琉球大学共通教育科目（社会系）「現代政治の課題」の実践内容を紹介する。

政治とは「社会に線を引き、秩序をつくる営み」である。政治は道路にたとえることができる。日本の場合、道路に線（センターライン）が引かれ、右と左の関係性が生まれる。それにより、「自動車は左側を通る」というルールをつくることが可能となる。そのルールをみんなが守ると信じて運転することにより、秩序（交通安全）が保たれる。センターラインが交通秩序をつくるように、社会に線を引いて秩序をつくるのが、政治である。

「現代政治の課題」の授業は、政治を疑似的に体験することから始まる。初回授業では、教室内で鬼ごっこを行う（筆者も本気で参加する）。鬼ごっこをする際、鬼は誰か、フィールドはどこか、といったルールの決定が必要である。鬼ごっこに参加する人が「社会」であり、鬼と逃げる人の線引き、鬼ごっこのフィールドの内と外といった線引きが行われる。氷鬼、バナナ鬼など、第三者による救済ルールを導入すると、実際の政治により近づく。受講生は、子どもの頃、鬼ごっこで遊びながら政治を実践していたことを理解する。その後、スクリーンに（1）無地のスライド、（2）中央に1本の線、（3）左の領域に↓&右の領域に↑、という順序でイメージを投影する。道路をモデル化したものである。受講生は、大学に通いながら政治を体験していることを理解する。

「現代政治の課題」では、様々なテーマを広く扱うのではなく、少数のテーマを掘り下げていく。この社会は、性別、学歴、職業、国籍、民族など、さまざまな線を引くことによって成り立っている。わかりやすくいえば、政治に無関心な人はいても無関係な人はいない。その中から、この授業では「水」と「基地」というテーマを取り上げている。人間は水を飲まずして生きていくことができない。そのため、私たちは水をめぐる政治と無関係ではいられない。ま

た、特定の地域による基地負担は、基地のない地域の安全も守っている。そのため、基地のない地域に住む人も、基地をめぐる政治と無関係ではられない。

「現代政治の課題」では、模擬選挙への参加を通じて、実際の政治プロセスを疑似的に体験する。受講生はまず、(1) 自分のくらしと水や基地とのつながり、(2) 水や基地に関する人々の意識、(3) 水や基地に関する制度(しくみ)、(4) 制度(しくみ)の決まり方について講義を受ける。次に、水や基地に関する実際の政策課題を自ら設定し、その解決策を「選挙公約」としてまとめる。最後に、選挙公約を授業内で発表し、投票を行う。一連の授業を通じて受講生は、政治家と有権者という2つの立場から実際の政治プロセスを疑似的に体験する。

ここまで、対面授業における実践内容を報告してきた。最後に、遠隔授業における実践内容を簡単に紹介しておきたい。模擬選挙では、ビデオ会議システムの録画/録音機能を活用している。受講生が事前に準備した録画/録音を、授業時にオンラインで共有すると、ソーシャル・メディア時代の政治プロセスに近づくように感じられる。その一方で、初回授業における鬼ごっこが実施できなくなった。鬼ごっこのように、身体を用いた活動を補完する方法の導入が、今後の課題と言える。

付記：本報告では、過去に「現代政治の課題」(社03、久保慶明)のシラバスで用いた記述を、一部、利用している。